

第 59 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会【部会①】

日時：2025 年 9 月 3 日（水）

全体会・部会①・部会②・部会③ 10:00～12:00（予定）

場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 品川高輪口

次 第

【部会①】

(1)開会

(2)第 8 橋梁北横仕切堤の調査成果について

【資料 1】

(3)京急線連立 遺構への影響低減に向けた工事計画の見直しについて

【資料 2】

(4)品川駅改良工事における杭の検出について（報告）

【資料 3】

(5)その他

(6)閉会

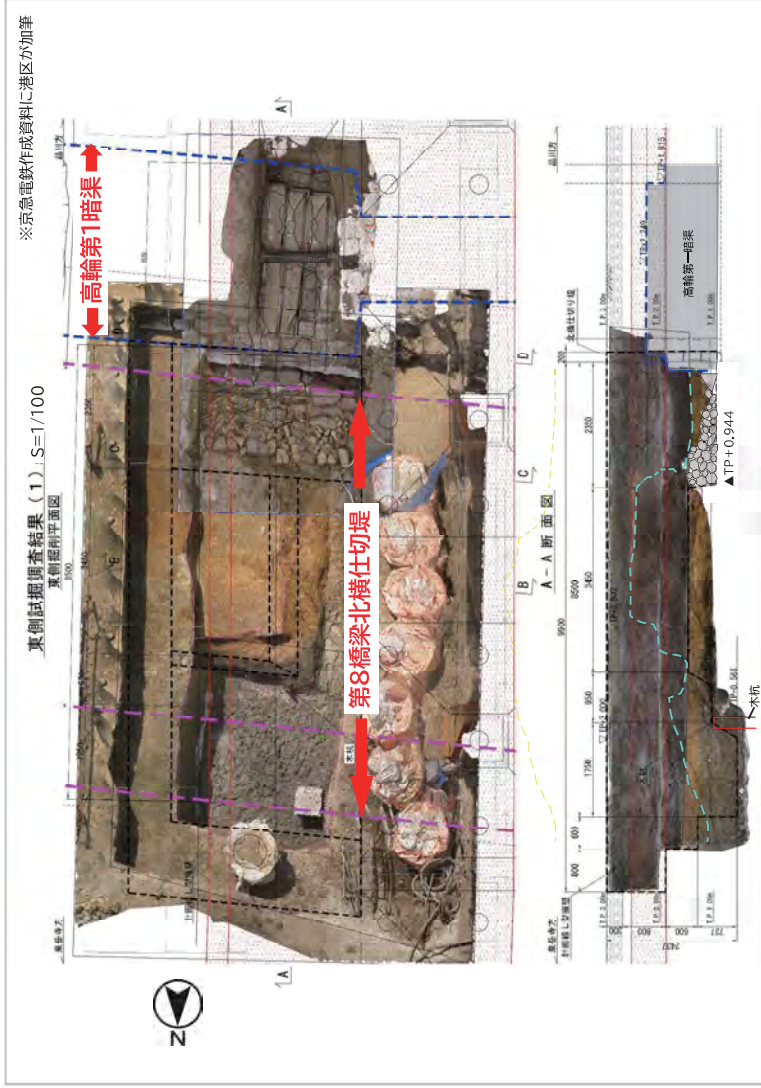
※なお、資料のなかで個人に関する情報や事業の関係等で非公開である情報については、一部表現を修正しています。その他、写真・図について一部訂正や出典等の加筆・修正をしています。

第8橋梁北横仕切堤の調査成果について

【資料1】

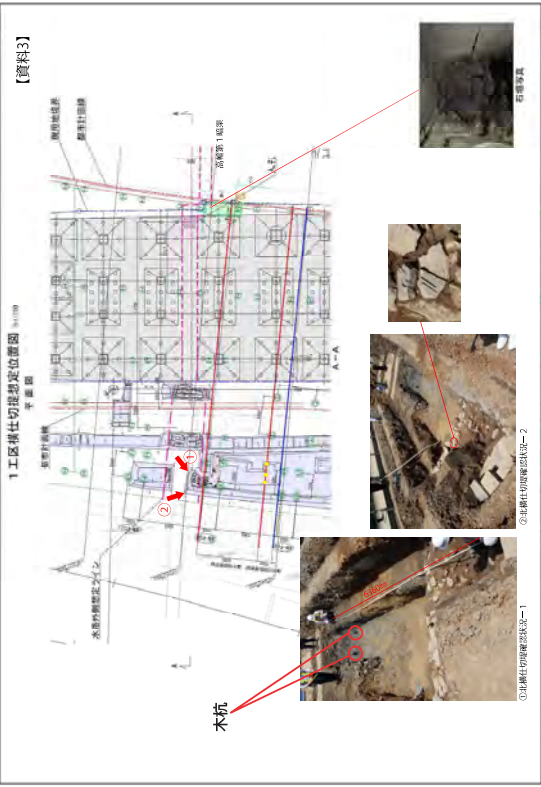
【調査の目的】

京急線地平化に伴い、第8橋梁北横仕切堤周辺でし型擁壁の構築を予定しているため、第8橋梁北横仕切堤の残存状況及び工事範囲との支障関係等を確認する。



高輪築堤調査・保存等検討
委員会第22回(2022年
9月7日開催)資料を転載、
一部加筆
(図面はNo Scale)

【資料3】



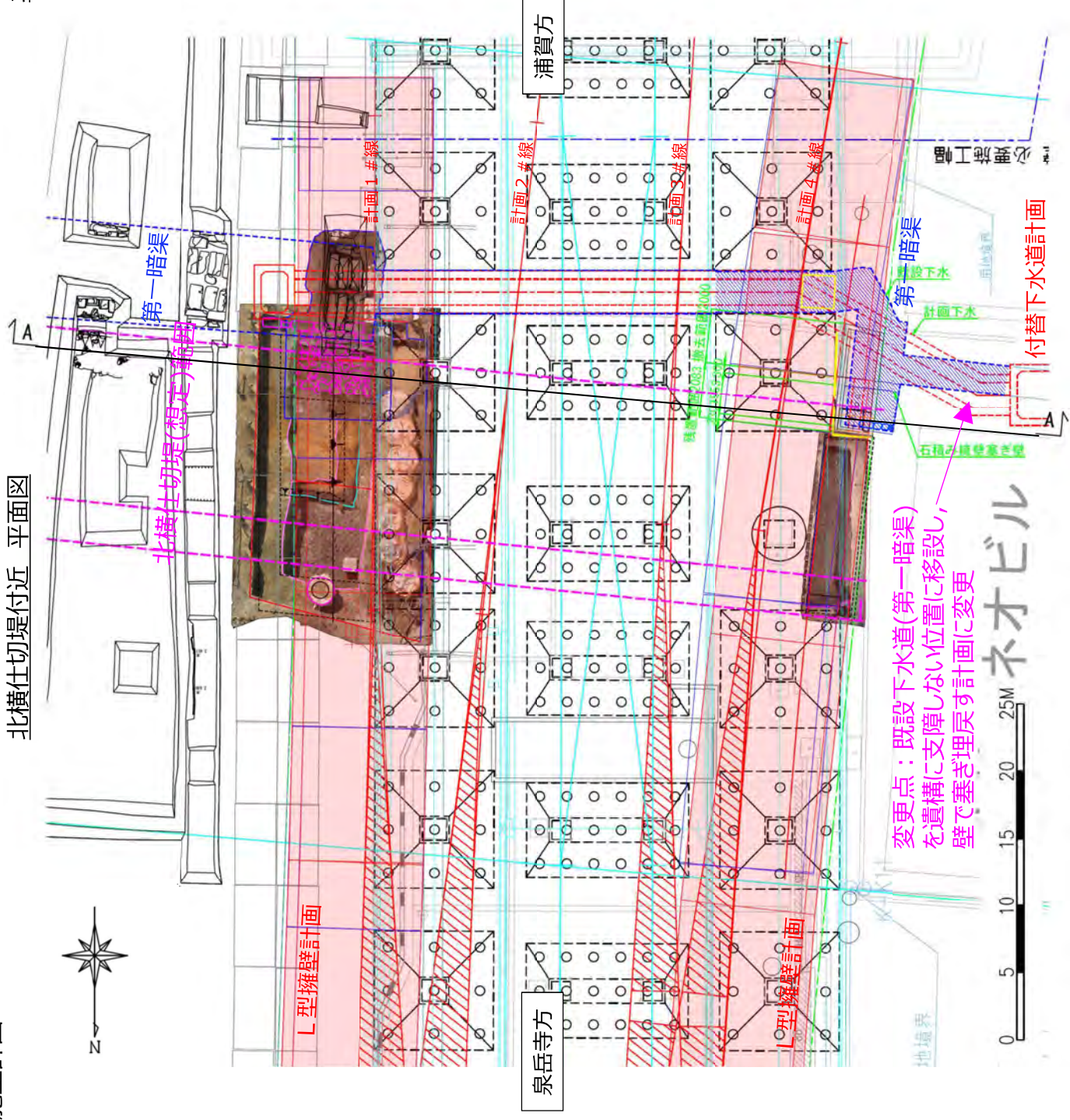
【調査結果】

- ・高輪第一暗渠 (供用中) の北面に接する石積み (1段分) を確認。検出レベル≒TP+0.9m。
- ・石積みの裏込めを確認。検出レベル≒TP+1.7m。
- ・石積みの北 6.75m で確認された木杭は、北横仕切堤の北面の土留めの一部であると考える。→これら3つは、第8橋梁の北横仕切堤に伴う遺構であると考える。
- ・土層断面の観察から、図中の水色破線が、第8橋梁北横仕切堤本体と思われる。(最も高い部分≒TP+2.5m)

1. 施工計画

北横仕切堤付近 平面図

北横仕切堤付近 断面図 (A-A断面)

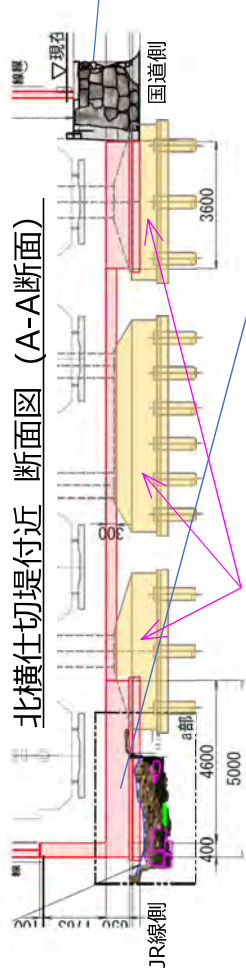


変更点：L型擁壁
底版厚を1,000mm
から650mmに変更

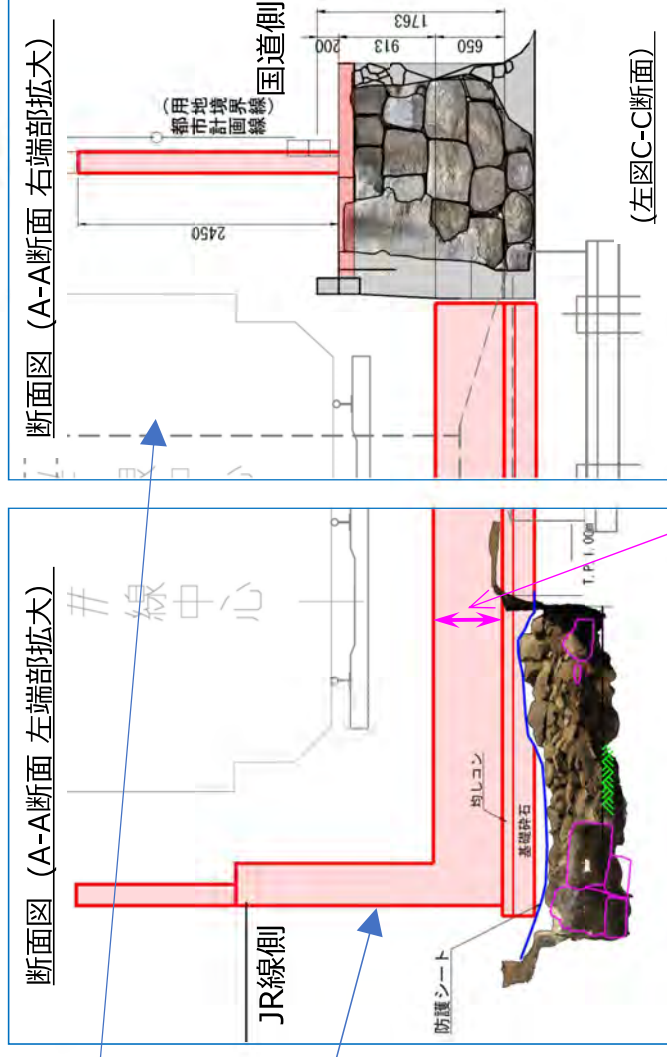
変更点：既設高架橋
のワーキングおよび杭を
残置する計画に変更

変更点：既設下水道(第一暗渠)
を遺構に支障しない位置に移設し、
壁で塞ぎ埋戻す計画に変更

2. 施工計画 (拡大)



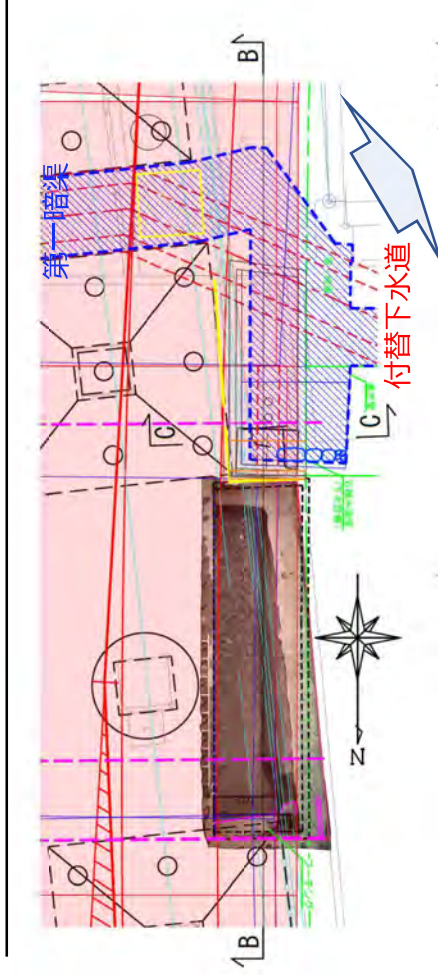
北横仕切堤付近 断面図 (A-A断面)



断面図 (A-A断面 左端部拡大)

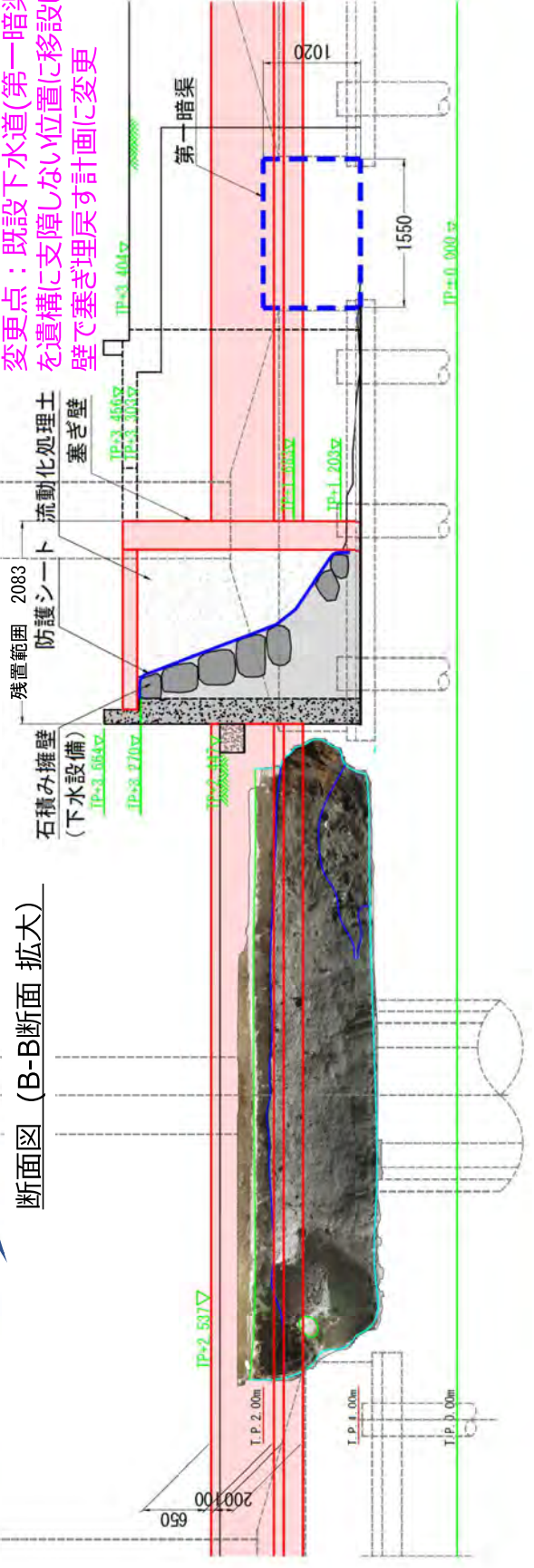
断面図 (A-A断面 右端部拡大)

変更点：既設高架橋のフーチング
および杭を残置する計画に変更



変更点：L型擁壁底板厚を1,000mmから650mmに変更

断面図 (B-B断面 拡大)



変更点：既設下水道(第一暗渠)
を遺構に支障しない位置に移設し、
壁で塞ぎ埋戻す計画に変更

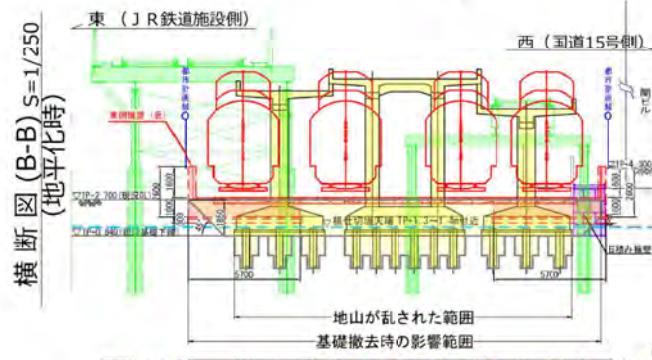
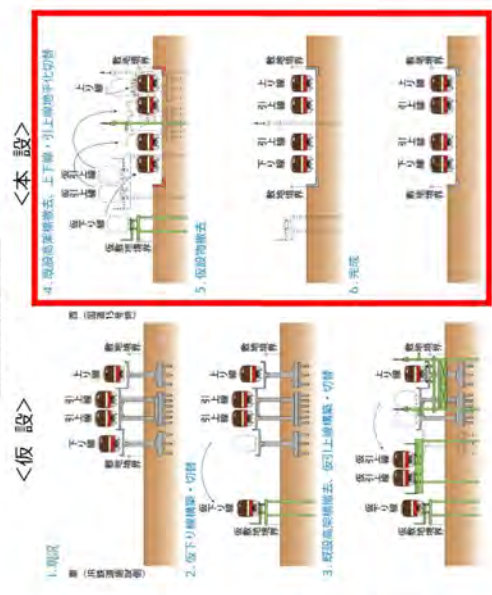
参考 (第46回高輪築堤調査・保存等検討委員会 部会① 資料再掲)

京急線連立 第8橋梁北横仕切堤付近 本設(地平)化工事計画について

2024. 8. 7

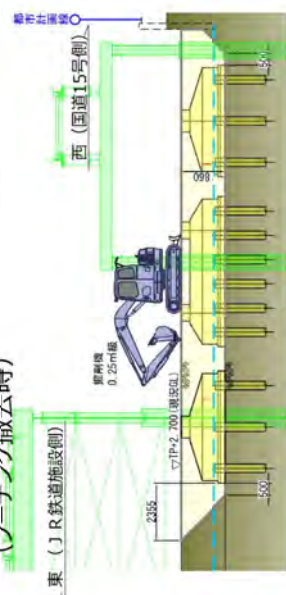
資料3

3



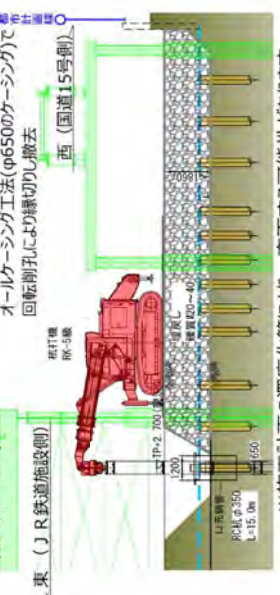
施工(掘削)計画 S=1/200

(ワーキング撤去時)



(杭撤去時)

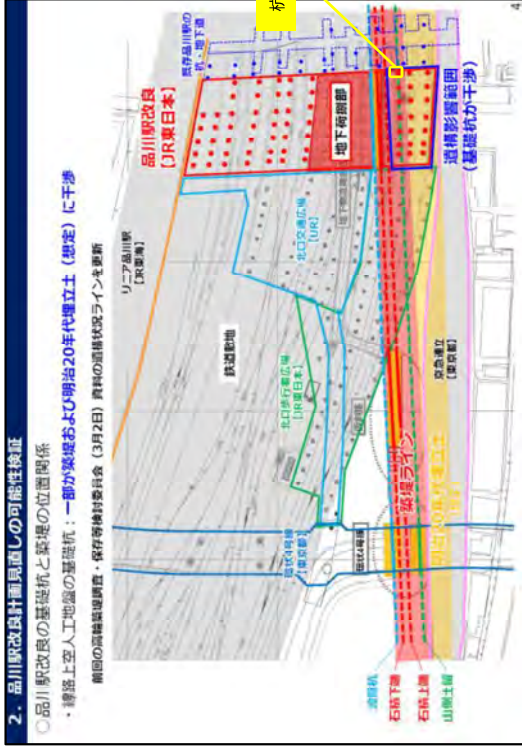
RC杭(L=15m φ350)を
オールケーシング工法(φ650のケーシング)で
回転削孔により縁切りし撤去



側面図(A-A) S=1/250

※施工計画の深度化等により、変更する可能性があります。

第16回 高輪築堤調査・保存等検討委員会資料再掲



基礎杭の本調査は既に終了(2023年2月2日～2024年6月3日)

2025年7月
第2ホーム上でのEV設置工事に伴い、既設階段を撤去
後に土壌改良のため掘削に着手したところ、杭列を検出
した

港区教育委員会の立会実施
→現状のまま保存出来ないかを検討
地耐力等について改めて検討を行った結果、
現地に残したまま埋戻しを実施することが可能となった。

【立会所見(港区教育委員会)】

- ・高輪築堤跡の調査成果から作成した想定断面図(下図)に照らし合わせると、当該部分は開業時(明治5年)及び複線化(明治9年)以降の盛土に相当すると考えられる。
- ・基礎杭の調査成果(左図)から、当該部分のTP+0.3mより上部は、すでに擾乱により失われている可能性が高いが、それ以降は高輪築堤跡の盛土が残存しているとみられる。
- ・今回確認された杭は、南北に列状に確認されているが、杭間の距離はやや不規則である。また杭径も、高輪築堤跡の既往調査で確認されているものに比べ、やや太い。
- ・杭付近から確認された礫類にも規則性は見られなかった。開業期山側石積み裏込めである可能性もあるが、検出範囲も限定的であることから、原位置を保っているかどうかの判断は難しい。

